

演劇集団空の魚



はまだたくま  
浜田拓磨さん

新年を迎えて、新たに何かに取り組もうと考えている方もいるのではないのでしょうか。

# 夢を持って

浜

田さんは厚別っ子。子ども会のジュニアリーダーとして地域で活動していました。そんな浜田さんが演劇と出会ったのは、上野幌中学校の部活動でした。「必修だったので、どれにしようか迷っているとき、友達に誘われたのが演劇部でした。入ってみたら、仲間で力を合わせて芝居を作ることがとても楽しかった」と、当時を振り返ります。

もっと満足できる芝居をとっくに思いが  
僕の可能性を引き出してくれる

ミカルな役に挑戦しましたが、とても不満が残る出来となりました。申し訳ないです。

そのとき、「このままで終わるのはいやだ。もっといい芝居がしたい。役者としてもっと成長したい」という演劇への強い欲求が生まれました。この思いが、大学進学と同時に「演劇集団空の魚」の活動に加わることにつながったのです。

「演劇集団空の魚」は、北

海道教育大学札幌校の演劇サークル。同校と北海道医療大学の学生がメンバーで、年に三回程度の公演を行っています。既成台本だけでなく積極的にオリジナル作品も取り入れ、毎回異なる傾向の芝居を上演しているのが特徴です。浜田さんは、現在ここを活動拠点にして演劇に取り組んでいます。

最近では、役者や裏方としてほかの劇団の公演に加わることもあります。「劇団にはそれぞれ個性があります。さまざまな個性ある方たちと芝居をしてみて、今まで気付かなかった自分の新しい一面が引き出されるといふ経験をしました。だから今は、とにかく演劇を続けて自分の可能性を試してみたいと思っています。そして、いつかは自分の芝居に満足できるようにになりたい」と浜田さんは、演劇への熱い思いを語ってくれました。



12月の公演では主役を演じる浜田さん。この日も遅くまで練習が続けられていました

